

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年1月11日

[評価実施概要]

事業所番号	1570102325
法人名	社会福祉法人 大形福祉会
事業所名	グループホーム 大形
所在地	新潟県新潟市東区海老ヶ瀬新町3丁目93号 (電 話) 025-256-6187
評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19 年 11 月 27 日

[情報提供票より] (19 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤13 人、非常勤 2人、常勤換算14 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り 平屋 建ての 1 階 部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費 (月額)	14,000 円
敷金	☐ 有 (円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	☐ 有 (円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	☐ 有 ☐ 無
食材料費	朝食 ー 円 昼食 ー 円 夕食 ー 円 おやつ ー 円 または1日あたり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (19 年 10 月現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名
要介護3	7 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	84.58 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本戸病院・松浜病院・東新潟友愛クリニック・高橋小児科医院・村井整形外科医院
---------	---------------------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

グループホーム大形は、平成14年9月に開設された。建物は住宅地の一角に平屋造りで建てられており、玄関回りにはプランターの花が手入れされているなど施設的な印象はなく、近隣の住宅に自然に溶け込んでいる。周囲には学校や大型スーパーなどがあり生活の利便性もあり、また、田畑や植栽などの緑も多く四季を感じられる環境にある。
管理者・職員は18年4月から地域密着型サービスに移行した趣旨を理解し、地域で利用者がその人らしい暮らしを送れるように日常的に話し合い、地域の方にホームを理解して貰えるように取り組んでいる。ホーム内は明るい色合いで観葉植物も多く、利用者や職員の笑い声も行き交い、ほのぼのとした家庭的な雰囲気である。利用者や職員が喜怒哀楽を共にする中で、利用者の持っている力を引き出し、家族の一員としての役割を担い生きがいのある生活が過ごせるように支援している。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4) 前回評価の結果について職員会議等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。利用者の居室作りにおいては、家族の協力を得て、家具等だけでなく写真や小物、絵などを持ち込んで頂いたり、ホームで作った作品などを飾るなどして工夫していた。食事の際に利用する食器は家庭的なものに、また、トレーの使用をやめ、利用者が自分で選んだ食器の滑らない楽しいマットにした。玄関の鍵については、ホーム前の道路が住宅街ではあるが車の往來が激しい事もあり、事故の回避から管理者不在の時にはまだ施錠が行われる時がある。施錠の時間は短縮してきており、現在も管理者・職員間で鍵を掛けない為の工夫を話し合い、実施に向けて取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 管理者が自己評価表を全員に配布し、各ユニットで話し合いながら記入を実施した。評価を、日常のケアや業務を振り返り、グループホームに求められる機能を再確認をする機会としている。今回の自己評価では特に、地域との関わりが求められていることを全職員が認識する機会となった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6) 利用者、家族、地域代表 (自治会長)、地域包括支援センター職員をメンバーに2ヶ月に1回開催している。また、3回目から市の介護相談員にも参加してもらっており、地域行事の情報収集や、地域との関わり方についての方法、避難訓練、ホームの状況報告、今後の方向性などについて話し合いを行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8) 運営推進会議で意見・要望を引き出し、その都度話し合いを行っている。また、家族会での聞き取りや家族だけの話し合いの場を設定するなど意見を言いやすい場面作りをしている。定期的な連絡時やホームへの来訪時、行事の参加の際にも引き出せるように働きかけている。苦情・相談窓口は内部・外部とも明確にして家族に案内し、苦情が寄せられた場合の対応についても職員間で周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 自治会に加入し、運営推進会議や回覧板を活用してホームの状況を理解して頂けるように情報を発信している。散歩時の挨拶や、地域の会合へ出席、近所への挨拶回りなど積極的に顔なじみになれるように取り組んでおり、草取りや祭りの準備など地域の催しに参加して地域の一員としての役割を担っている。最近は近所の方から野菜の差し入れがあったり、地域行事への声掛けもして頂けるなど、交流が出来てきている。地域の方にホームの行事への参加を呼びかけるなど、気軽に訪問いただけるようにも働きかけている。災害時にホームが地域の避難場所になれるよう、備蓄や場所の確保について検討し、地域への発信を試みている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんな、一緒になって話して気軽に仲良く暮らしていけるのがいいね」という理念を、運営推進会議の中で利用者と交えて話しあい作りあげた。ホームの中でも地域の中でも、みんなで支えあって楽しく暮らして行きたいという利用者と職員の思いが込められた理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者によって書かれた理念が、玄関・食堂・廊下にさりげなく掲げられている。管理者は日常的に理念が実践されているか職員に問い、会議の機会にも日々の取り組みを確認し合っている。		
2-2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	管理者と職員は家族と個別に面接する機会や、行事や家族会などの集まる機会に、事業所が大切にしている思いを家族に伝えている。運営推進会議においても理念について話す機会を持ち、徐々に地域住民に理解してもらえるような取り組み方法を模索しているところである。	○	自治会へ加入しており、今後はホーム便りを回覧板にのせて地域の方々に見てもらい、グループホームの理解をして頂くことを計画している。ホームの様子に加えて、ホームの理念についても地域の人々に理解して頂けるように啓発して欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており地域行事の案内が届き、学校の文化祭や運動会、演芸会には地域の方が事前に場所の確保を行ってくれている。また、地域の方々から踊りのボランティアに来ていただき、交流を深めている。地域の草取りなどの集まりには現在は職員のみで参加して顔見知りになるよう努めているが、今後は利用者も一緒に参加したいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価について管理者から全職員に説明したり、運営推進会議で説明し、日常のケアを振り返る機会として活用している。評価項目を確認することで、ホームとして今後取り組むことへの気付きの機会にもなっている。外部評価の結果も職員会議等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の代表から地域の情報を得ると共に、地域とパイプ役を担って頂いている。家族からは看取りに関する取り組みやホームへの要望など積極的に意見が出され、十分な話し合いを行いサービスの向上に活かしている。又、地域包括支援センター職員から避難訓練についての意見を得て、実践に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センターの職員から参加してもらっているが、市町村担当者は異動もあることから情報の共有が困難な部分がある。管理者は日常的に市に出向いたり、電話での問い合わせを行っているが回答を得られないこともある。	○	地域密着型に移行したことで、より市町村担当者との関係作りが重要である。今後も市町村に働きかけ、サービスの質の向上に向けて協働して行く関係づくりを期待したい。
6-2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や内部での研修会で高齢者虐待関連法や権利擁護について学習する機会を持っている。また、管理者は、虐待について新聞の切り抜きを活用するなど情報提供に工夫を行いながら日常的に職員に話す機会を持ち、ホームの状況把握を行い防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所された際や受診時には利用者の日常の暮らしぶり、受診結果について報告を行っている。面会に来られないご家族にも、定期的にホーム便りを送付し、暮らしぶりを手紙や電話で連絡している。預かり金についても、支出の額に応じて個々に家族へ連絡を行い、出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員には遠慮なく要望、不満を申し出られるように家族や利用者に話をしている。玄関に苦情箱の設置も行っている。事業所の受付窓口案内の他に外部の相談窓口も明確にしておき、苦情や要望が寄せられた際には迅速に職員間で話し合いを行い対応する仕組みが出来ている。		
8-2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が日常的に運営に関する意見を管理者に話せる関係ができています。月に1回開催される職員会議においても遠慮なく意見が出されている。管理者は、職員からの意見や管理者としての意見を運営者に伝え、意見を反映できるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が有する各事業所間での異動は多いが、グループホームでは職員と利用者との馴染みの関係が良いケアに繋がることを管理者から運営者に伝え、理解をしてもらうように働きかけている。また、異動があった場合は、利用者の状況を把握しながら、異動後もホームを訪ねてくるなど急に離れてしまうことのないようにし、ダメージを軽減するよう配慮している。		
9-2	18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	介護マニュアルや、行方不明時・緊急時・災害時の対応マニュアル、感染症マニュアルなど整備し、職員に周知している。また、事故報告書の評価を踏まえて個別対応の見直しを行いマニュアルを作成したり、日々の業務についても細かい気付きを話し合いマニュアル化するなど、より使いやすいマニュアル作りをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者・主任・新人研修等段階に応じた外部研修への参加や、法人内の研修、スキルアップの為に自主研修の支援を行っている。ホームでは、職員会議終了後にテーマを決めて内部研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームとの相互研修の他、実践者研修の受け入れを行うことで同業者との交流が図られている。また、管理者は地域のグループホームや同業者との情報交換、ネットワーク作りの必要性を実感しており、研修参加時や知人を通じて積極的に情報を収集しながら、中心となってネットワーク作りを推進している。		
11-2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は日常的に職員の様子を把握し、必要に応じて声をかけている。職員は、業務終了後に一緒にスポーツを楽しんだり、食事を共にし交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問や体験利用を行ない、職員と顔馴染みになることからスタートしている。入居に当たっては、家族からの情報収集を十分に行うと共に、本人の意思と入居している利用者との関係を考慮した上で決定している。利用者に不安がある時は、家族と一緒に泊まってもらうなど工夫して対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とすることや生活歴の中で習得してこれたものを把握して、利用者から習字や生け花・編み物を習ったり、占いをしてもらいなどし、一緒に喜怒哀楽を共にしている。職員からは常に利用者に対して感謝の気持ちが表現されており、一人ひとりの意欲に繋がっている。		
13-2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者、家族や地域との関係を断ち切らない支援を心がけており、家族の理解と協力を得られるよう働きかけている。些細なことも家族に連絡・相談し、一緒に支える喜びを共有している。また、来訪時には利用者と一緒に食事の準備や作業をしてもらったり、家族同士で過ごす時間も大切にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常の会話の中で、利用者一人ひとりの暮らしへの意向やしたいこと、食べたいもの、不満に思っていること、心配なことなどの引き出しを図っている。		
14-2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりについて、入居時のみならず入居後も、家族、ホームに入居される前の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業者、主治医、知人、地域の人などから情報の収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を聞き、センター方式のアセスメントで収集した情報や全職員からの気づきや意見を参考に担当者と計画作成者で介護計画を作成した後、他の職員に提示して再度意見を出し合って修正を行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期や必要時には家族に声をかけ担当会議に参加してもらうなど、家族の意見を聞く機会を設けている。職員全員から、利用者についての気づきを文書にして提出してもらうとともに、課題についてはその要因を分析して見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居以前のかかりつけ医への受診、馴染みの理美容院の利用、出掛けたいところへの外出支援など本人の要望を出来るだけ受けいれて、地域で暮らすことへの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医と連携して健康管理を継続している。また、協力医療機関である総合病院では緊急時には24時間体制で受け入れてもらえるほか、近隣の開業医にもいつでも相談でき、往診もしてもらえる体制が確立している。非常勤ではあるが看護師も従事している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の健康状態を踏まえて、1年に1回は主治医・家族と現状について情報共有を行っている。終末期については、ホームでできること、今後の方向性について運営推進会議や家族会の際に伝えている。「どんな状態になったらホームにいられなくなるのか」といった家族の不安に対しても、段階的な支援を行っていくことを説明し、納得いただいている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に記載されているファイルは、鍵のかかる場所でマニュアルに則り保管している。職員の言葉かけや対応も利用者の自尊心を傷つけるものでなく、常に穏やかにやさしい雰囲気であった。利用者の居室を訪ねる際も必ずノックをして声をかけ、本人に確認してから入室していた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先するのではなく、その日の過ごし方ややりたいことなどを利用者に聞き、要望に応えられるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時間がかかる人や、話好きな人、少し食欲が落ちている人など、一人ひとりの状態を把握して食席を決め、利用者と職員が楽しんで食事している。一人ひとりの状態に合わせて魚をほぐしたり、盛り付けに工夫していた。片付けや食事の準備も利用者と職員が会話を楽しみながら行なっている。		
22-2	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、段階的に自立に向けた支援を行っており、状態の改善が図れた利用者もいる。失禁を繰り返す利用者には、排泄パターンを把握しながらその要因を分析し、水分の摂り方の工夫や服薬時間の検討を行い改善に向けて支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望の回数や時間での入浴を支援しており、夜間入浴も実施している。また、利用者と一緒に栽培したハーブを風呂に入れて入浴を楽しんだり、冬場は心地よく眠れるよう夕食後に足浴を実施するなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾を縫って学校に寄付したり、孫の為にプレゼントを作ったり、作品を作ったりは玄関に飾るなど、生きがいや喜びを感じられるよう支援している。また畑やプランターの手入れ、観葉植物の水やりや食事の準備など役割を担ってもらっている。気持ちがふさいでいる利用者には散歩や食材購入への買い物に誘って気分転換を図り、ゆっくり個別に対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーでの食材買い出しやショッピングセンターでの買い物も楽しんでいる。天気のいい日はホームの周囲に散歩にも出掛けるようにしている。また、月に1回は併設のデイサービスの車を借りて全員で出掛けている。季節に合わせて外出先を決め、外食も楽しんでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアの実践を行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徐々に鍵を掛ける時間は短縮してきているが、職員が一人のときや、管理者が不在のときは、ホーム前の道路での事故を回避するため鍵を掛ける時がある。	○	職員の対応方法や利用者の一日の過ごし方を工夫するとともに、一人ひとりの症状や特徴を捉え、日々の状態像をしっかりと把握して情報の共有を図るなど、鍵を掛けない工夫を今後も職員間で検討して欲しい。
26-2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止や、窒息、服薬、行方不明、火災等についてはそれぞれにマニュアルが整備されており、全職員に周知されている。転倒等の事故が発生した時は原因の究明と職員間での話し合い、報告書の評価を行い、一人ひとりに合わせた防止策を検討し取り組んでいる。		
26-3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	法人内やホーム内での研修、消防署の心肺蘇生講習等、定期的に応急手当についての学習する機会が確保されている。また、緊急時の連絡網や主治医への協力要請などの方法が明確化されており、全職員が対応できるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	利用者がより避難しやすい方法を工夫し、定期的に訓練を行っている。消防署による火災発生時の訓練も定期的実施している。水害・地震発生時のマニュアルも作成し、周知している。また、今後は地域の防災訓練への合同参加も計画し、運営推進会議で話し合っているところである。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調がすぐれないときは食べたい物を食べられる形態で提供したり、糖尿病食への対応など、一人ひとりの状態に応じて食事の提供を行っている。毎食、食事摂取量のチェックを行い、水分と共に必要量の確保が出来るように支援している。献立について法人の管理栄養士から助言を受け、栄養バランスに偏りのないよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関へのエントランスにはプランターの花が彩り良く植えられ、ハーブの香りもさわやかに迎えてくれる。共有空間や居室のドア周辺は季節感のある飾りつけの工夫がされ、台所も家庭的な造りで暖かみを感じられる。トイレにも家庭的なカーテンや飾り付けをし、施設的な造りをカバーしている。全体が明るい色調で、採光も適度に取り入れられて居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台とベットは備え付けであるが、自宅から家具や、写真・小物などの持ち込みがなされ、一人ひとりの意向や好みを反映し、その人の今までの暮らしぶりが伺える居室作りが行われている。		